学校華道「花育」の取り組み

作成者：一般財団法人　池坊華道会　学校華道課

■ 学校華道とは…

最近の調査では、小学生から高校生までの子を持つ親の六割が「我が子に足りない物」として思いやりや愛情、命を大切にする心を挙げました。また小学生の七割が、「人は死んでも生き返る」と答えた結果が大きく報道されています。生きている植物に触れるいけばなでは、水をかえ、大切にしたら長く美しく咲いていること、また放っておけばすぐに枯れてしまうという、命の重みを実感できます。いけばなを通し、歴史や文化を味わい楽しむことはもちろん、命の重みや思いやり、また自然を愛でる心や環境保護への意識を高めることができるのです。花による心の教育は「花育」と名付けられ、華道家元池坊でも、「学校」という教育の場で伝統文化「いけばな」を学ぶことが、現代の日本に必要な人間形成に意味を持つと考えています。

第17回学校華道インターネット花展
いけばな池坊最優秀賞

■ 取り組み例

①学校華道実習（概要）
②学校華道実習校へのサポート（華道具助成・講師派遣・実施のノウハウの提供など）
③文化庁委嘱事業　伝統文化親子教室の実施
④Ikenobo花の甲子園
⑤学校華道インターネット花展
⑥修学旅行・課外活動の六角堂・いけばな資料館の見学といけばな体験
⑦教育委員会への協力・研修の実施

Ikenobo花の甲子園
地区大会　ミニチュア作品

学生花展　出瓶作品

伝統文化親子教室
作品

①学校華道実習（概要）

幼稚園から大学院までの登録した約1,850校を対象に、地域コミュニティーに密着した教授者を紹介・派遣し、学校華道実習校に取り組んでいます。

授業や部活動はもちろん、１回の体験授業、講演会形式で講義とデモンストレーションを見学するなど様々な形式で実施しています。

取り組みの様子

■ 当日の指導の流れ

1 講義

テキスト・プリントを配布

・初めての場合は、いけばなの歴史や考え方に触れる

・講義テーマについて　・飾る環境の話

・季節感の話　・使用花材について　など

2 デモンストレーション

実際、生徒がいける花材と同じものを用いて、いける際のポイント、花材の使い方（切り方、ため方、特徴のいかし方）などを解説しながら、デモンストレーションを行ないます。

実技をせず、講師のデモンストレーションの見学のみの場合もあります。その際は、普段、実技では取り組めない古典的な花形である立花（りっか）などを学習することも出来ます。

3 実技

いけ終えた生徒から一人一人、講師がアドバイス行ないます。

作品に込めた思いや表現について、生徒とコミュニケーションを取りながら、行ないます。

4 作品完成後、スケッチ（鑑賞会）

スケッチシートを用意し、いけた作品をスケッチし、感想を記入。また、お互いの作品を鑑賞する時間を設けています。

5 まとめ

（補足）いけられた花は、教室、校長室や玄関などに展示。入学式・オープンスクール・文化祭・卒業式など学校行事に併せて授業を実施することもできます。

■ 指導上のポイント

全体のポイント

・いけばなは「日本の伝統文化」であることを知ってもらう。
・実技（体験）をすることにより、花や植物を身近に感じてもらう。

実習のポイント

・大切なのは「楽しい」と感じてもらうこと。
・自分らしさを引き出す。

＜実習の授業テクニック＞
・デモンストレーションを参考に自由にいける。
・全員同時進行で実習する。
・主の花材だけを指示し、あとは自由にいける。

手直しのポイント

・まず良いところを褒めること。
・あまり直し過ぎないこと。
・手直しを加えた際の変化を共有すること。
・生徒とのコミュニケーションを大切にすること。

＜手直しの授業テクニック＞
・時間や人数を考慮し、手直しを進める。
・いけている生徒にも合間を見て、アドバイスをする。

作品完成後のポイント

・花や植物をいける楽しさを確認し合う。
・人に鑑賞される楽しさを味わう。

＜作品完成後の授業テクニック＞
・生徒は、スケッチシートを提出し、後日講師がコメントを添えて返却する。
・いけた作品に込めた思いや表現を代表者に発表してもらう。

②学校華道実習校へのサポート（華道具助成・講師派遣・実施のノウハウの提供など）

・華道具などの助成

学びやすい環境を整えることを目的に、学校華道実習校へ花器・剣山を贈呈しています。その他、取り組みの中で、ご使用いただく教材パンフレットの提供、映像教材の無料貸出なども行ない、学びやすい環境を整えています。

助成している華道具

教材パンフレット・映像教材

・講師派遣

全国の支部から地域コミュニティーに密着した指導者を紹介し、派遣しています。

講師による指導の様子

・実施ノウハウの提供

学校華道実習校からは、どのような活動を行なったか、また良かった点・改善点などを活動報告書にてご提出いただき、情報を集約しています。それらの蓄積された情報を基に、どのような内容・形態で実施していくのか、授業カリキュラムや活動内容などの提案に生かしています。

学校華道カリキュラム

実施月	講義	指導テーマ	指導内容
4月 （入学式）	初めてのいけばな （デモンストレーション） 花、花器を用意	楽しさ	・会話を対象とする こんにちは－さようなら（大きな声で） お願いします－ありがとうございました（はっきりと） ほめ言葉で言う－きれいですね。上手ですね。 ・花材を用意－少ない花材で ・花器は身近なもの ・ハサミ、持ち物の説明
5月 （子供の日） （母の日）	草木の生きる力	生命感	・美しさを保つには 水の必要性－水揚げ方法－水切り 自然の力－導管の働き ・花器は中の良く見えるものが良い ・家でいける習慣を育てる
6月 （父の日）	いけばなのバランス	バランス	・長短、大小、明暗 ・オアシスの使い方－広口の花器 ・曲げる、ためる ・花器－バランスをとるには口の小さい花器が使いやすい
7月 （七夕）	季節と遊ぼう	季節感	・季節の花－代表的な花の名前 ・季節の移り－日本の四季 ・季節と花器－ガラス、かご等
8月	季節と遊ぼう	植物と遊ぶ おしばな レリーフ	・夏休みの自由研究－おしばな、レリーフ ・手作りの楽しさ ・おしばなのおもしろさ ・おしばなの作り方－道具の使い方 ・レリーフの作り方 ・生の花一輪入れる
9月 （重陽の節句）	伸びのびと、 いけよう	花留め	・花留めの道具－剣山、小石、吸水性スポンジ、ビー玉、針金 ・伸びのびといける－長い花、大きい花 ・理科の「てこの原理」の例 ・広口の花器の使い方 ・細口の花器の使い方
10月	育てた花をいけよう	家で咲いた花	・家の花を利用（ガーデニングの花） ・短い花の利用方法（吸水性スポンジ使用、花器－かご、コップ等） ・稽古で使用した花などの再利用法－水切りをしっかり ・身近な花器－2個使いの方法
11月	モビールを 作ってみよう	工夫と いけばな	・作る楽しさ、夢があること ・自由な発想 ・つり合い－やじろべい、てんびんの応用 ・道具（ハンガー、針金、プラスチックケース等） ・落ち葉、枯れ枝使用
12月 （クリスマス）	色々な葉を使って	表現する 楽しさ	・自分だけの物語を作る－表現力 ・造形－葉の切り方、葉の生かし方 ・作る楽しさを第一とする ・素晴らしさをほめる ・楽しい花器を使って
1月 （お正月）	暮らしといけばな	伝統と花	・暮らしと行事 伝統的行事（1月1日、3月3日、5月5日、7月7日、9月9日） 国民的行事（母の日、クリスマス、誕生日） ・好きな花を使う
2月	いけばなで ありがとう	感謝の心	・感謝の言葉－ありがとう、嬉しいです、楽しいです ・出会い、ふれ合い、花を通した表現 ・送る花 ・楽しく心を込めていける
3月	いけばなの歩み	伝統文化	・発祥 ・床の間にいけられた ・立花、生花－室町時代 ・六角堂

③文化庁委嘱事業　伝統文化親子教室の実施

学校華道実習校と併せて、文化庁委嘱事業　伝統文化親子教室にも取り組んでいます。学校という教育の場以外にも、次世代のこどもたちが伝統文化“いけばな”に触れる機会を作るために全国各地で実施しています。

伝統文化こども教室　実施の様子

④Ikenobo花の甲子園　～高校生によるいけばな公開コンクール～

・趣旨

文化系の生徒が活躍の場を見出し、地域の代表として、いけばな発祥の地、京都・六角堂で花をいける喜びを感じ、日本の伝統文化・いけばなへの学びを誇りに思うことを目的に開催しています。

・概要

高等学校で池坊いけばなを学ぶ生徒三人が一チームとなり、制限時間45分制作した作品を発表する公開コンクールです。毎年7月末までエントリーを受付、8月から10月にかけ、全国各地で地区大会を開催。地区大会で代表となった高等学校を全国大会へ招待しています。全国大会は、いけばな発祥の地　京都・池坊で同時期に開催される最大・最古の池坊旧七夕会全国華道展内で開催。各地区の代表が“いけばな　高校生　日本一”の座をかけて、全国大会に臨みます。当大会は2009年から始まり、今年で7回目の開催となります。

いけばなに青春をかけ、真剣に取り組む高校生の輝く姿、斬新な形態が話題を呼び、年々出場校も増え、昨年（2014年）大会には、過去最多の118校が出場し、全国大会の結果、最優秀校には秋田県立横手城南高等学校が選ばれました。

・地区大会

地区大会は、全て公開形式で行っており制限時間45分以内に３種類の花器に1人１作をいけこみ、その後、持ち時間3分30秒で作品解説を行います。また、当日使用する花材は当日まで非公開。加えて、地元の花材を１種類持ち込むことができます。また、指定された3つの花器のうち、ミニチュア花器も各校で持参します。どんな花材を持ち込むか、ミニチュア花器に何を用いるかもアイデアが問われます。

そして、審査は、池坊関係者だけでなく、地元の教育委員会やメディア関係者によって行われており、いけばな作品としての優劣だけでなく、高校生らしい若々しくフレッシュな発想や、3人1組のチームワーク、パフォーマンスやプレゼンテーション力などの観点も審査対象です。また同時に観客投票や出場者の相互投票も実施し、その結果も審査に加味し、それらの総合得点が最も高かった学校が地区代表校として全国大会行きの切符を得ます。

地区大会　いけこみの様子

地区大会　会場の様子

・全国大会

出場者たちは、同時期に開催されている最大・最古の池坊旧七夕会全国華道展を見学したり、全国から集った出場者の交流を深める親睦会などを行ないます。ライバルでもあり、お花を通じた「仲間」であるということを感じつつ、全国大会への士気を高め合います。

そして、全国大会当日は、野球の甲子園さながらプラカードを持っての入場行進で開会。
全国大会は2部形式で開催し、まず１部では全国大会行きを掴んだ地区大会と同じ、「審査課題」に取り組み、2部に進出できる3校を選考します。

全国大会　1部の様子

2部では、花ばさみをバトン代わりにし、リレー形式にて3人で制限時間30分以内に1作合作をいけます。3人のセンスとチームワークを結集し、いけこみます。花包みを開いて初めて知る花材をどのようにいけるか、作品が出来上がっていく様子にハラハラ・ドキドキの連続です。
いけ終わった後は、作品解説を行ないます。
この中から最優秀校が決まります。

全国大会　2部の様子

全国大会出場者　集合写真

2014年大会　最優秀校
秋田県立横手城南高校の皆さん

当大会を通して、高校生の華道にかける熱い気持ち・姿勢が伝わってきます。
事業趣旨の達成はもちろん、高校生が出場を通して感じたこと・経験したことで、華道や花に親しむ気持ちを育むことを願っています。

⑤学校華道インターネット花展

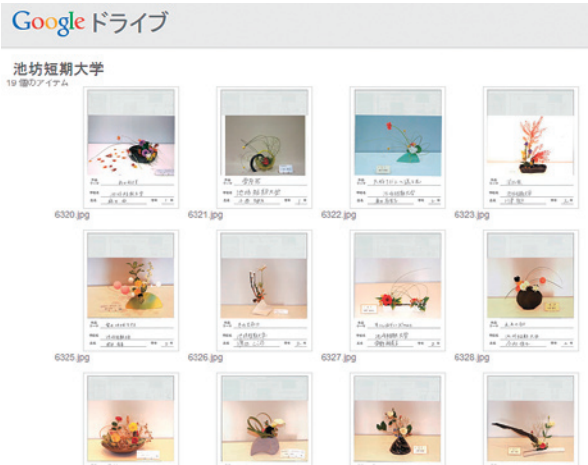
・趣旨

「Ikenobo花の甲子園」同様に、日頃のお稽古の成果の発表の場になること。また入賞を目指し、目標を持って、華道に取り組めるようになることを目的としています。

・概要

学校華道インターネット花展は、学校華道実習校の生徒だけでなく、伝統文化こども教室や個人教室で池坊いけばなを学ぶ児童・生徒・学生であれば、活動形態に関係なく、誰でも応募することができます。全応募作品は、池坊ホームページ上で展示をします。
また、全応募作品の中から、個人賞32、団体賞3の表彰も行なっています。

第17回　文部科学大臣賞　作品



インターネット上の表示イメージ

⑥修学旅行・課外活動の六角堂・いけばな資料館の見学といけばな体験

学校華道では、修学旅行・課外活動で京都を訪れた生徒たちに六角堂・いけばな資料館の見学、いけばな体験を行っています。

京都・六角堂で朝夕の仏前供花から発祥した“華道”。

六角堂の建立と華道の関わりについての解説を聞き、いけばな専門の資料館の見学をします。歴史や文化の知識を深めた後に実際に花をいける体験をしています。（見学のみの場合もあり）

班行動はもちろん、クラス・学校単位での受け入れもし、年間を通じての参加があります。

多くの方々にお越しいただき、“いけばな”を体感していただくきっかけ作りを行っています。

六角堂　見学の様子

いけばな体験の様子

⑦教育委員会への協力・研修の実施

京都府・京都市の教職員を対象とした研修を実施しています。

当研修は、まずは教職員の皆さんが伝統文化“華道”をきちんと体得し、生徒たちに還元するために、教職員自らが学び、講義と実技を通して、教育の場でいけばなが果たす役割を考え、実践に導く貴重な機会となっています。

また、国際化に伴い、京都府では「歴史・伝統・文化」の英語マルチメディアテキストとして、華道を取り上げ、英語で華道を学ぶ取り組みも実践されています。その他、ALT（外国語指導助手）への研修なども実施しています。

また、京都府（市）の例をもとに、学校という「教育」の場で「花育」が行われるよう各地の教育委員会との連携強化に取り組んでいます。

京都市教職員研修の様子